

みずほマーケット・トピック(2025 年 4 月 25 日)

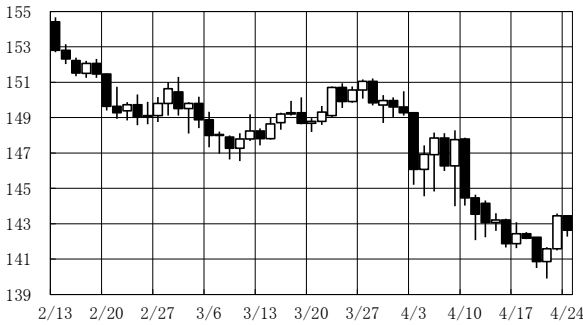
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

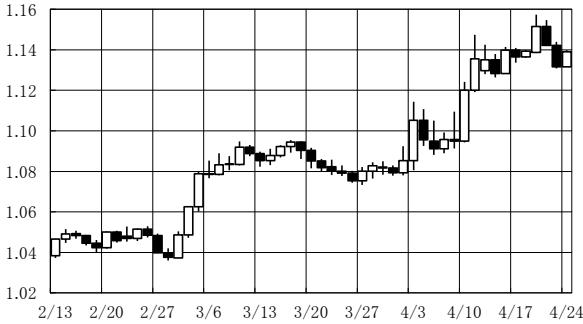
- 今週のドル/円は、年初来最安値を更新後、反発した。週初21日、週末のパウエルFRB議長解任を巡る報道を受け、本邦時間早朝からドル売り地合いとなり141.55円でオープンしたドル/円は141円を割り込む展開。海外時間は、材料難の中で140円台後半を中心にレンジ推移した。22日、ドル/円は仲値にかけて小幅高も、ドル安地合いの中で139.89円まで急落し2024年9月16日以来の安値を更新した。海外時間は、株高に加えて、関税を巡る中国との対立についてベッセント米財務長官が楽観的な見方を示しことも支えとなり、141円台後半に急反発した。23日、ドル/円はトランプ米大統領による発言を好感し一時143円台に急伸も、直ぐに切り返して再び142円を割り込む。海外時間は、米国による対中関税緩和に関する報道やベッセント米財務長官による強いドル発言が材料視され、米株高とともに一時週高値となる143.58円まで反発した。24日、ドル/円は日米財務相会談を控え警戒感が広がる中、143円を割り込む展開。海外時間は、ドル売り相場が続く中で、米住宅関連指標の冴えない結果も重しになり、142円台前半に続落。引けにかけては、米株の反転に連れる格好で142円台後半に水準を切り上げた。本日のドル/円は、ドル買い相場の中で、143円付近で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週初に年初来最高値を更新後、上値重く推移した。週初21日、1.1451でオープンしたユーロ/ドルはドル売り相場の中で、2021年11月以来の高値となる1.0575まで上昇した。22日、ユーロ/ドルは1.15台半ばに小幅高の後、米高官による発言を受け米中貿易摩擦懸念が緩和されドル高となり、1.14台前半に反落した。23日、ユーロ/ドルはトランプ氏の発言を受けたドル買いを受け一時週安値となる1.1308まで急落後、1.14台を回復。その後は、米国による対中関税が緩和されるとの期待感からドル高となり、再び週安値圏に水準を切り下げた。24日、ユーロ/ドルは独4月IFO企業景況感指数の市場予想を上回る結果や米金利低下が支えとなり、1.14手前まで上昇した。本日のユーロ/ドルは、ドル買い相場の中で、1.13台後半で取引されている。

		前週末	今 週				
		4/18(Fri)	4/21(Mon)	4/22(Tue)	4/23(Wed)	4/24(Thu)	
ドル/円	東京9:00	142.34	141.55	140.88	142.69	143.20	
	High	142.45	142.15	141.67	143.58	143.33	
	Low	142.10	140.48	139.89	141.54	142.28	
	NY 17:00	142.22	140.88	141.62	143.47	142.62	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1378	1.1451	1.1514	1.1351	1.1327	
	High	1.1398	1.1575	1.1547	1.1440	1.1398	
	Low	1.1359	1.1393	1.1418	1.1308	1.1323	
	NY 17:00	1.1390	1.1512	1.1420	1.1314	1.1389	
ユーロ/円	東京9:00	161.87	162.15	162.19	162.06	162.25	
	High	162.10	162.63	162.22	162.50	162.50	
	Low	161.81	161.79	161.00	161.20	161.95	
	NY 17:00	162.05	162.23	161.67	162.34	162.48	
日経平均株価		34,730.28	34,279.92	34,220.60	34,868.63	35,039.15	
TOPIX		2,559.15	2,528.93	2,532.12	2,584.32	2,592.56	
NYダウ工業株30種平均		-	38,170.41	39,186.98	39,606.57	40,093.40	
NASDAQ		-	15,870.90	16,300.42	16,708.05	17,166.04	
日本10年債		1.28%	1.28%	1.30%	1.32%	1.31%	
米国10年債		-	4.42%	4.40%	4.38%	4.31%	
原油価格(WTI)		-	62.41	63.67	62.27	62.79	
金(NY)		-	3,425.30	3,419.40	3,294.10	3,348.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、5月2日(金)に4月雇用統計が公表予定だ。前回3月の結果は、非農業部門雇用者数が+22.8万人(前月比、以下同様)と、2月(修正後:+11.7万人)および市場予想(+14.0万人)を上回った。他方で失業率は4.2%となり、市場予想および2月の4.1%を上回った。なお、平均時給は+0.3%と市場予想に一致したものの、2月の+0.2%からは伸びが加速した。雇用者数変化の強い伸びは、悪天候やストライキなどの影響が剥落したことが主因であって、割り引いて考える必要がある。今後は関税賦課や政府効率化省(DOGE)による下押し圧力が予想される。平均時給も前年比で見れば鈍化を継続させており、賃金インフレの再燃が強く懸念される状況ではない。なお、4月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者数を+13.0万人、失業率を4.2%、平均時給を+0.3%と見込んでいる。
- 本邦では、4月30日(水)～5月1日(木)に日銀金融政策決定会合が開催される。3月会合は市場予想通り、政策金利の誘導目標を0.50%程度で維持。3月会合直後では5月会合での追加利上げを予測する向きもゼロではなかったが、米関税政策やそれに端を発する国際金融市場の混乱も相まって、利上げ予測は消え失せた。金利先物市場を見る限り、本稿執筆時点においては年内の追加利上げ回数に関して0.50回程度しか織り込まれていない。直近では植田日銀総裁の発言も多く見られたが、米関税政策の影響を丁寧に確認するとしつつも、緩和状態の調整には依然として前向きな姿勢を維持している。なお今回は展望レポートも公表されるが、成長率見通しが下方修正されるとの観測報道も見られた。

	本 邦	海 外
4月25日(金)	・4月東京消費者物価指数	・米4月ミシガン大学消費者マインド(確報)
28日(月)	_____	_____
29日(火)	_____	・ユーロ圏4月消費者信頼感(確報) ・米3月JOLT求人件数 ・米4月コンファレンスボード消費者信頼感
30日(水)	・3月小売売上高 ・3月鉱工業生産(速報) ・3月住宅着工件数 ・2月景気動向指数(確報) ・日銀金融政策決定会合(5月1日まで)	・独4月消費者物価指数(速報) ・ユーロ圏1～3月期GDP(速報) ・米4月ADP雇用統計 ・米1～3月期GDP(速報) ・米3月個人所得/支出 ・米3月個人消費支出デフレーター
5月1日(木)	・4月製造業PMI(確報) ・4月消費者態度指数 ・植田日銀総裁会見	・米4月製造業PMI(確報) ・米4月ISM製造業景気指数
2日(金)	・3月失業率/有効求人倍率	・ユーロ圏4月製造業PMI(確報) ・ユーロ圏4月消費者物価指数(速報) ・ユーロ圏3月失業率 ・米4月雇用統計

【当面の主要行事日程(2025年4月～)】

日銀金融政策決定会合(4月30日～5月1日、6月16～17日、7月30～31日)

FOMC(5月6～7日、6月17～18日、7月29～30日)

ECB政策理事会(6月5日、7月24日、9月11日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年4月24日	不確実性極まるIMF報告～WEOとGFSR～
2025年4月23日	最強通貨の地位が続くスイスフランからの教訓
2025年4月22日	加藤・ベッセント会談プレビュー～為替は争点なのか？
2025年4月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月スタッフ見通しの重要性を強調～)
2025年4月17日	マールアラーゴ合意の読み方～40年前の再現は不可能～
2025年4月15日	日本の構造変化vs. 国際金融体制の再編
2025年4月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年3月分)
	日米通商交渉プレビュー～論点の検討～
2025年4月11日	週末版(リスクシナリオの高まり～不穏なベッセント発言～)
2025年4月9日	トランプ大統領は「カーブ効果に耐えられるのか
2025年4月8日	残された望みは「緊急協調利下げ」か？
2025年4月7日	インバウンド需要はピークアウトするか？
2025年4月4日	週末版(正論を掻き消す時代の振り子～デタラメ過ぎる関税根拠と為替政策報告書～)
2025年4月3日	厳しい対米貿易の展望～輸出は減り、輸入は増える～
2025年4月2日	トランプ時代の「為替政策報告書」の意味を考える
2025年4月1日	1～3月期の為替市場外観～割を食うユーロ圏～
2025年3月28日	週末版(世界に広がるスタグフレーションシナリオ～25%自動車関税の行方～)
2025年3月25日	インフレに適応する家計部門～「貯蓄」から「逃避」～
2025年3月24日	インフレか、デフレか～FOMCを終えて～
2025年3月21日	週末版(日銀会合を終えて～「史上最大の円ロング」、2つの先行き～)
2025年3月18日	「暖かい水」が流れ込むユーロ圏の近況について
2025年3月17日	日銀会合プレビュー～現状維持が基本に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年2月分)
2025年3月14日	週末版(史上最大だった対外直接投資～厚くなる日本の「仮面」～)
2025年3月12日	過去最大の円ロングに勝算はあるのか？
2025年3月11日	テーマ化する「欧州の再軍備」～EUの場合～
2025年3月10日	テーマ化する「欧州の再軍備」～ドイツの場合～
2025年3月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～拡張財政路線の足音～)
2025年3月5日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～後編～
2025年3月4日	トランプ発言を受けて～「円安はずるい」の一点張り～
2025年3月3日	ロ・ウ開戦後3年間の円相場を振り返る～前編～
2025年2月28日	週末版
2025年2月27日	欧米デカップリングに対するECBの見解
2025年2月25日	ドイツ総選挙レビュー～「壁の内側」では何も変わらず～
2025年2月21日	週末版(不安漂う米国の消費者マインド～追加関税の副作用～)
2025年2月20日	トランプ就任1か月、金利・為替はどう動いたか
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2025年1月分)
2025年2月18日	円建て輸入物価で読む日銀の「次の一手」
2025年2月17日	本邦10～12月期GDPを受けて～鮮明になるインフレ税～
2025年2月14日	週末版(窮屈になりそうなECBの政策環境～追加関税とユーロ安～)
2025年2月13日	ドイツ総選挙の展望～重いメルケルの「負の遺産」～
2025年2月12日	デジタルに規定されるサービス赤字10兆円時代の足音
2025年2月10日	為替需給から整理する日米首脳会談
2025年2月7日	週末版(円高の背景整理～その持続性を疑う～)
2025年2月5日	関税相場と円相場～日米首脳会談を控えて～
2025年2月4日	「需給ギャップ」は利上げしない理由になるか？
2025年1月31日	週末版(ECB政策理事会を終えて～極めて大きくなる欧米格差～)
2025年1月30日	FOMCを終えて～近づく「利下げの終わり」～
2025年1月28日	一抹の不安を感じる大統領と財務長官の齟齬
2025年1月27日	日銀会合を終えて～円安次第、変わらず～
2025年1月24日	週末版
2025年1月23日	ユーロ安の影響に言及したラガルドECB総裁
2025年1月22日	ワンノッチは解消されたのか～日銀プレビュー～
2025年1月21日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年12月分)
	就任演説を受けて～気になる原油価格の今後～
2025年1月17日	週末版
2025年1月15日	「NISA貧乏」もインフレ税の結果
2025年1月14日	サービス収支赤字の長期試算～赤字▲10兆円の常態化か？～
2025年1月10日	週末版
2025年1月9日	円金利上昇でも円安～恐れていた事態～
2025年1月8日	早速、バリティ割れを視野に捉えるユーロ/ドル相場
2025年1月7日	ブラックスワンとしての「プラザ合意2.0」を考える
2025年1月6日	25年、円相場見通しポイント整理
2024年12月24日	家計金融資産の現在地～進んだ「貯蓄から投資」～
2024年12月20日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～円相場は1月まで持つのか～)
2024年12月19日	FOMCを終えて～やはり高そうな中立金利～
2024年12月18日	ドル覇権への挑戦と第二次トランプ政権
2024年12月16日	スイスフランと円の差を考える～貿易収支の大きな違い～
2024年12月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年11月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～目指すは中立金利以下か？～)
2024年12月11日	本邦大手保険会社の海外企業買収報道を受けて
2024年12月10日	続・円相場の需給環境について～25年ポイント補足～
2024年12月9日	2025年見通しのポイント～金利編その②～
2024年12月6日	週末版(流動化する欧州政治とユーロ相場～内憂外患そのもの～)
2024年12月5日	2025年見通しのポイント～金利編その①～
2024年12月3日	2025年見通しのポイント～需給編その②～
2024年12月2日	2025年見通しのポイント～需給編その①～
2024年11月29日	週末版
2024年11月28日	英国ISAと新NISA、資本逃避を巡る似て非なる悩み
2024年11月27日	目標にすべきではない「実質賃金の上昇」
2024年11月25日	2年ぶりに注目されるユーロ/ドルのバリティ割れ
2024年11月22日	週末版(史上最大の妥結資金も利下げ路線に影響なし～ユーロ圏7-9月期妥結資金を受けて～)
2024年11月21日	混迷が極まるドイツの政治・経済情勢
2024年11月19日	ECB政策理事会議事要旨を受けて～12月利下げの読み筋～
2024年11月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年10月分)
	日銀にとって「渡りに船」となる好調な個人消費
2024年11月15日	週末版
2024年11月14日	「家計の円売り」は腰折れたのか？
2024年11月13日	内外物価格差で感じること～欧州を訪れて～
2024年11月12日	トランプ2.0で「仮面の黒字国」が主張すべきこと
2024年11月11日	弱まる「実需の円売り」vs. 強まる「投機の円売り」
2024年11月8日	週末版(ナローパスに嵌まるFRB～トランプ2.0はインフレ2.0～)